



自発的国家レビュー（VNR）

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、フォローアップとレビューの一環として、国連加盟国が、国及び地域レベルにおいて、各々の国のイニシアティブで、定期的に包摂的な進捗に関するレビューを行うことを促している。このレビューは自発的国家レビュー（VNR: Voluntary National Review）と呼ばれ、毎年7月にECOSOCの下で開催されるハイレベル政治フォーラム（HLPF）に提出される。

日本は2017年のHLPFでVNRを発表。前回発表してから4年経ち、多くの国が2回目の報告書を提出し始めているところ、今年のHLPFで2回目のVNRを提出する。

持続可能な開発のための国連ハイレベル政治フォーラム（HLPF）

SDGsの実施をレビューするグローバルレベルでのフォローアッププロセスと位置づけられている会合。4年に1回、国連総会の際に開催される首脳級会合（＝「SDGサミット」。2015年と2019年は安倍総理（当時）が出席）と、毎年7月に経済社会理事会主催で開催される閣僚級会合の2種類がある。全ての国連加盟国や国際機関、地域機関、市民社会等が参加。閣僚級セグメント（本年は7月13日-15日に開催予定）では、VNRを提出する国がプレゼンテーションを行うことになっている。

閣僚級セグメントには、これまで我が国から、主に大臣（もしくは政務レベル）が参加。VNRの発表は基本的に各国閣僚が行っている（一部は首脳レベル）。



2017年版VNRの構成

1. 要約
2. イントロダクション
3. 報告書の準備
4. 政策措置及び可能にする環境
 - (1) 組織メカニズム
 - (2) 国家枠組みへのSDGsの組入れ
 - (3) 2030アジェンダの原則の主流化
 - (4) SDGsのオーナーシップ醸成
 - (5) SDGsに関連する優先課題の概況及び好事例
5. 次のステップ



2021年版VNRの構成(案)

2017年以降、国連においてSDGs達成に向けた取組の進捗を測るためのグローバル指標が整備され、国連経済社会局(DESА)はVNRに入れることが望ましい要素(例:データに基づく進捗評価、マルチステークホルダーの関与)について加盟国に説明を行っている。これらを踏まえ、2017年以降の取組を中心に以下の構成する。

1. 巻頭メッセージ(総理から)
2. 要約
3. 報告書作成方法
4. SDGs達成に向けたビジョン
5. 国内のSDGs推進体制・主な取組
 - (1) SDGs推進に向けた国内体制
 - (2) 国内普及の動き
 - (3) 8つの優先課題と主な取組
6. 各目標の達成状況(17のゴール毎の達成状況)
 - (1) 政府による進捗評価
 - (2) 円卓会議民間構成員による進捗評価
7. 今後の進め方